

岐阜県次世代自動車充電インフラ整備計画

2020年での急速充電器の整備必要基数が252、普通充電器の整備必要基数が555で、合計807基の増設を2013年5月策定の「岐阜県次世代自動車充電インフラ整備計画」を目指している。

「岐阜県次世代エネルギー・ビジョン」の一環で EV普及を進める日本の縮図エリア



上：高山市の道の駅・桜の郷莊川の急速充電器 下：岐阜市が実証実験で一般開放中の急速充電器の案内看板



1 乗鞍スカイラインへのEV乗り入れ実証実験を実施 2 郡上市の畠中水道が設置したコインランドリー店舗への充電インフラ設置例 3 土岐市の石黒商事によるコメダ珈琲店への充電インフラ設置例

現状

EV・PHV導入台数は目標の7割

2013年3月末時点で1034台に達している。背景には国からの補助金や県内カーディーラーによる販促活動が奏功したものと思われる。充電インフラについては2013年6月時点で急速充電器31基となっている。

目標

2013年度前後に1500台

マスター・プランではEV・PHV導入が2013年度前後に1500台、2020年度前後に15.6万台、2050年度前後に100万台が目標。充電インフラは2013年度前後に急速・中速20基が短期目標。

地域と用途でEV効果を簡単シミュレート

東

海エリアで第2期のE

V・PHVタウン構想

に選定されている岐阜県は、自動車依存度が高い県だ。1人あたりの自動車保有台数も

多く、旅客輸送手段の98%を

自動車に依存している。また、

再生可能エネルギーの地産地

消を目指した「次世代エネルギー・

エネルギーインフラ」に組み入れる

エネルギー技術のひとつとして

次世代自動車の推進を図っ

ている。

なかでも特徴的なのが、

「道の駅」への急速充電イン

フラの重点的整備と、中山

間地域でのEV実証実験だ。

2011年度と2012年度

2013年3月末時点で1034台に達している。背景には国からの補助金や県内カーディーラーによる販促活動が奏功したものと思われる。充電インフラについては2013年6月時点で急速充電器31基となっている。

再生可能エネルギーの地産地

消を目指した「次世代エネルギー・

エネルギーインフラ」に組み入れる

エネルギー技術のひとつとして

次世代自動車の推進を図っ

ている。

なかでも特徴的なのが、

「道の駅」への急速充電イン

フラの重点的整備と、中山

間地域でのEV実証実験だ。

2011年度と2012年度

2013年3月末時点で1034台に達

している。背景には国からの補助金や

県内カーディーラーによる販促活動が奏功したものと思われる。充電インフラについては2013年6月時点で急速充電器31基とな

っている。

再生可能エネルギーの地産地

消を目指した「次世代エネルギー・

エネルギーインフラ」に組み入れる

エネルギー技術のひとつとして

次世代自動車の推進を図っ

ている。

なかでも特徴的なのが、

「道の駅」への急速充電イン

フラの重点的整備と、中山

間地域でのEV実証実験だ。

2011年度と2012年度

2013年3月末時点で1034台に達

している。背景には国からの補助金や

県内カーディーラーによる販促活動が奏功したものと思われる。充電インフラについては2013年6月時点で急速充電器31基とな

っている。

なかでも特徴的なのが、

「道の駅」への急速充電イン

フラの重点的整備と、中山

間地域でのEV実証実験だ。

2011年度と2012年度

2013年3月末時点で1034台に達

している。背景には国からの補助金や

県内カーディーラーによる販促活動が奏功したものと思われる。充電インフラについては2013年6月時点で急速充電器31基とな

っている。

今後の展望

エコ観光需要喚起に期待

日本屈指の高山ドライブの聖地・乗鞍スカイラインEV乗り入れ実証実験などにより、EVドライブ人気が高まるのは必至。排ガス規制などにより内燃自動車の乗り入れが禁止されている観光地の需要喚起も期待できる。

利用者の視点

設備設置の規制緩和を

道の駅が多い岐阜県では、道の駅への充電インフラ強化を目指しているが、事業者にとっては道路法の関係で充電インフラ設置がしにくいことがある。特例措置などの規制緩和が望まれるとの声があった。

規制されている乗鞍スカイラインへのEV乗り入れの実証実験を開始。郡上市では充電器付きコインランドリーの運営、土岐市では充電器付き珈琲店と災害対応型給油所の設置など、積極的な民間業者が登場している点も見逃せない。